学級通信 はばたき

大田区立御園中学校
難聴学級
第４号
令和８年９月 14 日

中学校難聴学級交流会・先輩の話を聞く会

８月末に御園中学校の近隣の難聴学級の生徒達と交流会を行いました。参加したのは、品川区立豊葉の杜学園、世田谷区立駒沢中学校、港区立御成門中学校、御園中学校4校です。

交流会では、自己紹介の後にレクリエーションで「イメージ一致ゲーム」と「NG ワードゲーム」を行いました。はじめは緊張した面持ちだった難聴生たちでしたが、ゲームを通してお互いに打ち解けた表情で話すことができました。また、グループごとのフリートークでは、「宿泊行事の時、補聴器はどうしているか」や「クラスで言われてうれしかったこと」「学校生活で気になる音」などについて、それぞれの思いを語り合っていました。









先輩の話を聞く会では、武蔵野市立第一中学校の難聴学級（エコールーム）の卒業生山岸珠子さんから中学生時代から社会人になるまでの様々なお話を伺いました。真剣に聞き入る生徒たちのまなざしが印象的でした。

話を聞いた後の生徒たちからは、「高校選びにおける一つの考え方が分かってよかった」「僕も職場体験に行ったばかりだから働くことについての話は興味がもてた」「自分のことをどう発信するかの大切さが分かった」といった感想がありました。

「小中交流会」開催のお知らせ

日　時　令和8年 10 月７日(水)
　　午後3時から午後4時まで（開場　午後2時40分から）
場　所　大田区立北糀谷小学校　体育館
持ち物　動きやすい服装、上履き、水筒、タオル

現地集合・現地解散をしたい人は、事前に相談してください。
保護者の方も参加可能です。希望の方は難聴学級までご連絡ください。

通級の予定

【9月】10 日(木) 11 日(金)
16 日(水)グループ自立
24 日(木) 25 日(金)
【10 月】1 日（木）2 日（金）
7 日（水）小中交流会
At　北糀谷小学校
15 日（木）16 日（金）
22 日（木）23 日（金）
29 日（木）30 日（金）

日本からアフリカへ　難聴学級の旅✈



夏休みはマレーシア旅行へ。ボルネオ島のビーチやジャングルで自然を満喫し、そして首都クアラルンプールに行きました。クアラルンプールには、スターバックスのサイニングストア（Signing Store）１号店があるのをご存じでしょうか。

サイニングストアとは、聴覚障害のある方が誇りをもって働くことをコンセプトとして作られたスターバックスで、注文は声ではなく、指さしやボードに書いて見せます。

何を頼もうかなぁとパンフレットをのぞき込むと、スタッフさんが「これとこれがおいしいよ！」「どう？」と身振りで話しかけてくれました。「じゃあそれで」と指さしで応える私。注文が終わると、日本手話で「ありがとう」と伝えてくれました。「どうして知っているの？」と尋ねると、側頭部に手を当てて「覚えたんだよ」と。予期せぬ嬉しいやり取りに、笑顔がこぼれました。

現在世界に 20 店舗以上あるサイニングストアですが、この取組はクアラルンプールの店舗から始まったものです。それまで掃除や事務作業を任せられることの多かったマレーシアの聴覚障害者が、「コミュニケーションを取りながら働きたい！」という思いをスターバックスに相談し、こうした店舗ができたということでした。そしてこの取組がスターバックス本社で認められ、アメリカや中国、そして日本にもサイニングストアが広まっています。東京の国立駅にあるので、ぜひ行ってみてください。

帰る前に、「手話を１つ教えて」と頼むと、「マレーシア」のサインを教えてくれました。ソンケット帽の形を模した動きみたいです。マレーシアには「Lepak（レパッ）」（友達とカフェや誰かの家で、ただおしゃべりをしたりスマホをいじったりしてリラックスする）という日本語にはない言葉があるようなので、次行ったときはその手話を教えてもらいたいなぁと思います。　（芳我）

～言の葉（ことのは）～

「無言館」を訪ねて～人間が生きることって？戦争って？～

私はこの夏、長野園上田市の郊外にある「無言館」という美術館へ行ってきました。たまたま御園中の図書室で『「無言館」ものがたり』という本を目にしたのがきっかけです。「無言館」には、太平洋戦争で亡くなった画学生さんたちの作品や遺品が集められていました。まさに、言葉を失いました。作品を見つめる小２の娘の目からは自然と涙が落ちていました。ぜひ、皆さんも機会があれば足を運んでみてください。とは言っても、なかなか中学生が簡単に行ける場所でもないので、美術館長である窪島さんの書いた『「無言館」ものがたり』の一節を紹介します。

「無言館」の絵の前に立ったとき、私たちは現在の自分たちの生活に対してなんとなく疑問を抱いてしまうことです。朝から晩までゆたかなモノにかこまれ、何一つ不自由のない生活を送っていながら、自分はこの画学生さんたちのように生きているだろうか、という疑問です。明日戦争で死んでしまうかもわからない画学生さんたちが、その短い一生を「絵を描くこと」にささげていたのと同じように、私たちにはこんなに一生懸命生命をかけてうちこめる目的があるのだろうか、という疑問です。（窪島誠一郎『「無言館」ものがたり』より）

私たちが平和に生きている時代は、こうした「戦争」という歴史の上に築かれているのだということに思いが至りました。そして今も地球のどこかの国で、戦争によって罪もない人々が犠牲になっていることを忘れてはいけないですね。戦争とは？平和とは？人間が生きることについての様々な問いかけが詰まった美術館でした。　（田村）



学級通信 はばたき

大田区立御園中学校
難聴学級
特別号
令和８年９月 14 日



♪難聴学級卒業生のお話♪

私は中学時代、「エコールーム」という難聴学級に通級していました。そこには難聴の仲間がいて、同じような悩みを抱えていたので、私にとって安心して過ごせる居心地のよい場所でした。英語は苦手でしたが、海外ドラマ『glee』を見たことをきっかけに英語が好きになり、考え方も変わりました。苦手なことでも、ちょっとしたきっかけで「好き」に変わることがあるのだと感じました。そんな中学時代を過ごす中で、大切だと感じたのが、自分の難聴について、自分から周りに伝えられるようになることです。中学校には難聴学級があり、先生方が支えてくれますが、高校からは、自分から周りの人にお願いしたり、自分の聞こえの状況を説明したりする必要があります。「こういうときに聞こえにくい」「こうしてもらえると分かりやすい」と、自分のことを伝え、周りに理解してもらえるようになっておくことが大切だと思います。

さて、高校では印象に残っていることが二つあります。一つ目はダンス部での活動です。文化祭などで大きなスピーカーを使うと、音が反響して遅れて聞こえたり、リズムが分かりにくくなったりすることがありました。そこで、顧問の先生にペンライトなどを使ってリズムを視覚的に示してもらいました。この経験から、「聞こえにくいからできない」とあきらめるのではなく、自分に合った方法を考えたり、周りにお願いしたりすることで、できることは増えていくということを学びました。また、ダンス部では人間関係で悩んだこともあり、最初は友達づくりがうまくいきませんでした。それでもめげずに、気になる人には自分から声をかけ、積極的にコミュニケーションをとるようにしました。

二つ目は、アルバイトに挑戦したことです。10 社以上受けましたが、なかなか決まりませんでした。でも、あきらめずに粘った結果、無事にコンビニで働くことが決まりました。ちょうどコロナが流行っており、マスクをつけなければならなかったことやレジの飛沫防止シートがあったことで、お客様が何を言っているのか聞き取るのが大変で、一緒に働く友達に助けてもらっていました。

このように様々な経験を重ねる中で、興味のあることにはまず挑戦してみることの大切さを学びました。その経験は大学選びにもつながり、幼い頃から高齢者と接することが好きだったので、福祉を学べる大学へと進学しました。現在は介護の仕事をしています。最初はユニバーサル枠で働き、その後、正社員として働ける別の老人ホームへ転職しました。仕事のやりがいは、入居者の方とのコミュニケーションです。「ありがとう」「お疲れさま」と言ってもらえると、頑張ろうと思えます。職場では報告・連絡・相談を大切にし、挨拶なども自分から声をかけるようにしています。そうした積み重ねが、職場の人との信頼関係につながっていると感じます。

最後に、高校からは、耳から入ってくる情報が少なくなる分、周りをよく観察して行動することも大切になります。だからこそ、部活動や習い事、アルバイトなど、興味のあることにはどんどん挑戦してみてください。いろいろな経験をすることで、将来の選択肢が広がり、自分の人生もより豊かになっていくと思います。同じ難聴の仲間や、これから出会う友達、先生とのつながりも大切にしてください。困ったことや悩んだことがあっても、一人で抱え込まず、誰かに相談してください。

私には、中学時代に難聴学級でお世話になった山田先生からの今でもずっと忘れられない言葉があります。「ハンデがあるぶん、相手の殻を破る勢いで、自分から積極的に行動する。」この言葉を大切にしながら、私はこれまでいろいろなことに挑戦してきました。皆さんも難聴を理由に、やる前からあきらめないでください。自分から挑戦することで、新しい出会いや気づきがあります。困難なことがあっても、前に進む力があれば人生はやっていけます。まずは、自分から一歩踏み出してみてください。